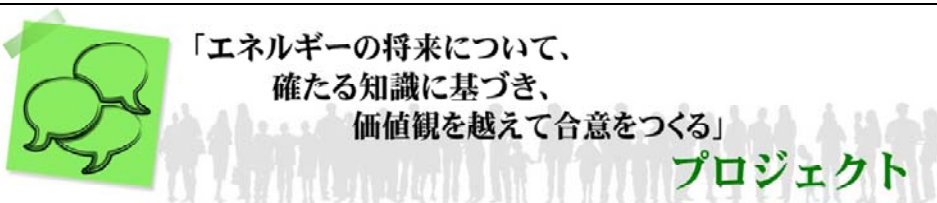


※発言をそのまま書き起こしたデータを基に、個人情報に関する部分を削除し、文意が通るように修正を行っています。

自由討議「エネルギーの将来はどうあるべきか」




「エネルギーの将来について、
確たる知識に基づき、
価値観を越えて合意をつくる」
プロジェクト

〔ステップ4 …残り時間〕
エネルギーの将来はどうあるべきか

- こだわりポイントを共有したあと、自由討議になります

スタッフが
ファシリテートします。



木村：それでは、こだわりポイントの共有をしたいと思います。今度は D さんから回してみましようか。模造紙に、付箋を放射状に貼って行ってください。こだわった理由を話してくれたら、竹中がそれを簡潔にまとめて、追加で貼っていきます。ではどうぞ。

D：私は、「運輸」の分野での CO₂削減と電力化をこだわりたいと思います。

先ほどの話の中で、「家庭」に努力を強いるのは難しく、企業に強いたほうが省エネが進むという話があったと思うのですが、私は、どちらかに頼るのではなく、全員が省エネに向けて取り組めるところをガンガン取り組むべきだと考えました。

木村：皆が取り組めるところが「運輸」じゃないか、ということですね？

D：はい。

木村：じゃあ、C さんいきましようか。

C：私は、安定した供給がやはりほしいなと思いました。

そのために、何か 1 つの発電の割合をすごく大きくしてしまうのはちょっと怖いなと思ったので、全体的に分散したいのと。あと、できれば自給率ももうちょっと上げたいなということで、自国でも賄えるようになればいいなと思いました。

木村：安定供給するために、何を一番頑張りますか？

C：うーん、全体として消費量は減らして、

木村：消費量は減らして、バランスよく供給する、そんな感じのイメージでしょうか？

C：そうですね。そんなイメージです。

木村：はい、分かりました。

じゃあ、Gさんいきましょう。

G：私は、再生可能エネルギーの使い方をこだわりたいなと思いました。

今回エネルギーフローを作りましたが、ほとんどの人がコストがものすごくかかっている、その原因が再生可能エネルギーに頼り過ぎたからかなと思っていて。環境にやさしかったとしても、安定的な電力が得られないし、使い方が難しいので、あまり頼り過ぎるのはよくないので、そういうところのバランスが必要なのだなと感じて、そこをこだわりたいと思いました。

木村：じゃあ、「使い方」というのは、それがいいからお金をかけてどんどん使おうということではなくて、ちゃんとその辺を考えたいいいバランスで使うという意味ですね？

G：はい。

木村：はい、ありがとうございます。

じゃあ、Eさん。

E：私は、消費のほうで、個人の意識と生活は変えられないというのがこだわりポイントです。

先ほど、消費のほうからフローチャートを考えたら、すごいことになってしまって、ちょっと現実的じゃないなという結果になってしまったのですけれども。やはり消費から攻

めるとああいう結果になってしまうから、供給をいかにするかというところを考えなければならぬのだなということが分かったので、こだわるとしたら、生活は変えられないというところにこだわって、そこから、じゃあどうするかというアプローチをしていかなければいけないなと思いました。

木村：なるほど。消費は変えられないのではないかというのが一番ゆずれないところということですね。だからこそ、供給のほうでしっかりバランスをとるなり、考えなければいけない。そういう感じですね。

E：はい。

木村：はい。では、Aさん。

A：私のこだわりポイントは、電気代というか、生活レベルというのがあるのではないかなと思いました。

今、Eさんが言ってくれたようなことと若干近いところがあるのですけれども、今までのワークショップを通して、いろいろな視点から発電というものを見てきたのですけれども、それぞれ一長一短があって、どれを選ぶというのも具体的な決定打がなかったのですよ。それで、今、全部考えてみて、フローチャートを使ってコストとかを見てみたら、理想的な、これを使ったら環境にいいだろうといったものが、巡り巡って、自分たちの生活レベルが落ちるところまで電気代が上がってきてしまう。やはり私たちにとって住みよいところ、企業にとって経済活動がしやすいところということを考えると、電気代とか、それに付随した生活レベルは落とせないのではないかなと思って、私はこれを選びました。

木村：なるほど。電気代は、あまり上げないようにしなきゃ駄目だと。そうじゃないと生活も産業もやばいのではないかと。そこがこだわりだということですね。

A：はい、そうです。

木村：じゃあ、Fさん。

F：私は、産業を大切にしたいというのがこだわりポイントです。

理由は、結構Aさんとかぶるのですけれども、「家庭」とかのレベルを変えられないからといって、「産業」に全て押し付けると、巡り巡って、国力が落ちて、全体の生活レベルがいやでも落ちると思うのです。それをしないためには、国の根幹となる産業をまずちゃんと大切に、ないがしろにしないことが大事じゃないかなと私は思います。

木村：なるほど。要は、背景がないと自分の生活もできないということですね。だから国力全体を維持するような産業をちゃんと作って、ひいてはそれが自分たちの生活レベルの維持になるのではないかな。そういうところがこだわりということですね。

じゃあ、Bさん。

B：私は、このモデルから外に出てしまうかもしれないですけども、安定供給がこだわりポイントです。今は0ですけど、原子力発電によってエネルギーを安定供給するのが一番外せないポイントじゃないかなと思いました。

シミュレーションの結果を見てみて、自給率が高ければ、自国で選択できる余地が多いと思うのです。だけど、外国からの輸入に頼っているようでは、それが止まってしまったら仮定が崩れてしまうというか、安定に入ってくるという条件下ではいろいろできるかもしれないですけど、それが入ってこないということになってしまうと、何もできなくなってしまうのかなと思ったりして。そういうふうにと考えると、今では現実的なのが原子力なのかかなと思ったので「原子力発電による」ということにしたのですけれども、エネルギーの安定供給が一番外せないのではないかなと思いました。

木村：なるほど。安定供給というよりも、自給率を上げるということがポイントですか？

B：そうですね。

木村：そこで原子力が使えるのではないかと。そういう意見ですね。

というふうに、今、こだわりポイントを話していただきましたけれども、ここからは何も筋道のない意見交換ということになります。

ただ、筋道がなさ過ぎてもということで、私がある程度ファシリテーションしながら、話し合ってもらおうと思っています。今、自分たちの一番のこだわりポイントを出したわけですけども、これはちょっとどうなのかとか、ここここはコンフリクトが生じるのではないかとか、感じた意見はありますか？ 順不同でいきたいと思います。

それとも、どの意見も調和的なのでしょうか？ こだわりポイントを全員が共有して将来が描けますか？

ちょっと難しいですか？ 分かりました。では、また個別に当てていきます。自分の意見以外で、このポイントは最も共感できたというものと、逆に、これは自分とは少し方向性が違うことを言っているなというものを、それぞれ言ってもらいたいと思います。

まずは、ああ、これは私とすごく似ている意見だな、というものを共有してみましよう。また端からだとなれなので、Eさんからどうぞ。

E：私は、Aさんの意見が一番近いかなと思います。私は、電気代とか個人にかかるお金についてからこの意見を出したわけではないのですが、Aさんの意見を聞いて、確かに電気代が上がると、生活水準が、下がるかどうかは分からないけど、やはり苦しくなるので、同じ意見かなと思います。

木村：なるほど。そこでAさんに行くとなつまらないから（笑）、Gさんに行きましょう。

G：私も、Aさんの意見が一番近いかなと思います。私は、電気代が高くなった原因が再生可能エネルギーなのかなと思って意見を出したのですが、確かに電気代が上がってしまうと生活していけなくなるので、そこはこだわっていききたいかなと思います。

木村：なるほど。Cさんはどうですか？

C：似ていると思ったのはBさんの意見です。原子力とか、そういった選択肢が広がることによって、安定的な供給が可能じゃないかというのは、同意できると思いました。

逆に、Fさんの「産業は大切にしたい」という意見は、「産業」がどういう感じのイメージなのかなとちょっと疑問に思いました。私のエネルギーフローは、消費を減らしたいということで、結構縮小する感じになってしまったのですが、元気がなくなるような感じはあまりイメージしていなかったのです。まあ具体的にそれがどういう感じかを説明するのはちょっと難しいのですが、「国力を維持する」というのをどういう感じに捉えているのかなというのは聞きたいなと思いました。

木村：なるほど。それはFさんに2巡目に話してもらいましょうか。それとも、今話してみますか？ いいですか？ じゃあ、後でお願いします。

じゃあ、Dさん。

D：私も、Aさんの、電気代のことから生活レベルをきちんと守りたいという意見には同意です。私もフローチャートですごくコストが上がってしまったのですが、それだと生活をしていけなくなる人が出てくるので、それを一定水準には保ちたいというのは、そうだなと思いました。

Eさんの、「個人の意識と生活は変えられない」という意見には少し違和感を覚えました。私としては、意識を変えなければ何も始まらないのではないかと考えています。供給のバランスを変えるのにはやはり限界があるのかなと思ったのです。もちろん、供給も変えるべきだと思うのですが、個人の意識からも考える必要があるのではないかと考えました。

木村：なるほど。じゃあ、Eさんも悶々と考えておいてくださいね。

じゃあ、Bさん。

B：同じ意見だったら、Cさんの〔安定供給〕かなと思います。

コンフリクトのほうは2つあるのですけど。1つは、Eさんの〔個人の意識と生活は変えられない〕です。個人の生活が変わらないから例えば「家庭」の消費量が減らない、とは限らないかなと思っています。例えば、オール電化とか、いろいろなものの省エネ化。2050年は30数年後だと思うのですけど、家庭それぞれにしても、いろいろなものを買ひ替えると思うのです。ものすごいパターンだと家を建て替えるとかそういうこともあると思うのですけど。個人の生活は変えられないにしても、そういうことによって、電力消費という意味やエネルギー消費という意味ではもっと下がってくるのではないかなと思います。

あとは、Fさんの〔産業は大切にしたい〕という意見も、どういう産業なのか。例えば工業とか、さっき先生が教えてくれた鉄とか、エネルギーをたくさん使う産業をそのまま続けるのか、それともサービス業とか、消費財の生産とか、そういうものにどんどん切り替えていくのか。そういうことによって、一口に「産業」といっても、議論の方向が変わってくるのではないかと思いました。

木村：EさんとFさんにはまた宿題が出ましたね。

じゃあ、Fさん行きましょう。

F：賛成するのはAさんの意見です。生活レベル自体は普通に落としたいくないですし、住みづらかったらそもそも人が離れていくと思うので。住みやすい環境は大事だなと思います。

逆に、反対なのはEさんの意見です。〔個人の意識と生活は変えられない〕というのは夢がない話だなんていう部分もあるのですけど、それは置いておいて、1人1人が意識しようという道徳的な部分じゃなくても、消費自体は変えられると思っています。それこそBさんが言っていたように、使うものが変わったり、あとは補助金や税金のかけ方次第でも、個人がどういう動きをするかは変わると思うので、個々人の生活自体は割と変えられるものだと思います。以上です。

木村：ありがとうございます。Eさん、いろいろ来ていますね。

じゃあ、大人気のAさん、お願いします。

A：そうですね、私としては、どの意見もそんな感じだなあと思ったのですよ。それぞれ大事だなというのはありますし。

特に私の中でイメージが近かったのは、FさんとEさんの意見です。Fさんの〔産業は大切にしたい〕という意見は、私は電気代というひとつの基準を考えたのですが、日本国内にトヨタとか、そういう車メーカーとか、いろいろな産業があると思うのですけど、電

気代が高くなってしまおうと、その分やりにくくて、どんどん国外に逃げていくこともあると思うので。国内の労働を増やすなら、電気代はゆずれないだろう、という感じです。

〔個人の生活は変えられない〕というのも、まあ1人1人が意識を持つのは大事なのですけれども、私の中での生活レベルというのは、例えば「何時になったら電気を消さないといけない」みたいなかなりの質素儉約、これ以上は守りたいというラインが守られなければ、やはり住みよいとは言えないなと思ったので、そこは大事だなと思いました。

で、コンフリクトというかどうか分からないですけど、Bさんの安定供給に対する自給率というところに少し引っかかりました。これはなかなか難しいと思うのですけれども、私は、自給率が高いのが必ずしもいいと思っていなくて。私は農業系なので、食料自給率を考えたりするのですが、効率を考えると、自給率が高いほうがいいとは思えないのですよ。例えば、ここで作ったほうが効率的に作れる、経費が削減できる、という棲み分けはあると思うので。エネルギーの場合、日本で全て賄うとしたら、茂原油田とかバイオマスを使うと思うのですが、石油もあまりない時点で、コスト的に効率のいいものがないのではないかと考えていて。まあ、私はどちらがいいとも言えないのですけれども、自給率を高めるのがひとつの正しい解とは思えないかな、という感じです。

木村：なるほど。

じゃあ、EさんとGさんは、コンフリクトに関する意見は聞いていないので、そこを言ってみましょうか？　じゃあ、Gさん、どうぞ。

G：私は、うーん、どれもなるほどなっていう感じなのですが。

木村：Eさんもそんな感じですか？

E：なんというか、別に対立するようなことはないのではないかと。

木村：なるほど、分かりました。

そうすると、コンフリクトが生じそうな点は、大きく2つだと思います。

1つは、個人の意識とエネルギーの関係について、個人が変わらなくてもエネルギーは減るのではないかと、という意見がありました。

もう1つは、安定供給について、自給率を高めるのか、効率を求めていくのか、という点については、少し議論の余地があるかなと思います。

同じ意見だと感じる点は、やはり調和的な意見が多いのかもしれませんが。電気代、安定供給の2つがよく挙げられていました。あと、DさんからはCO₂削減の意見も出ているのですけれども、そういうところも調和的にできるのではないかと、というような話だったと理解しています。

さて、あまり大きなコンフリクトではないのですけれども、Eさんにいろいろ宿題が出ていたと思います。Eさんの見解をここで発表してもらいましょうか。

E: まず、Dさんから、意識を変えないと始まらないという意見をいただいたのですけれども、でも、やはり皆さん電気代を上げるわけにはいかないという考えを持っているわけだし、あと、さっきチャートを作ったときに、Cさんが、24時間営業のコンビニとかはやめたらいいという話をしていたと思うのですけれども、24時間営業は何かのときにあったら便利だから、こう、始まってしまった以上、今さらやめるなんてことはできないのではないかなと思って。生活に関しては、もう後戻りはできないと私は思うので、やはり意識と生活は変えられないのが現実じゃないかなと思います。

ただ、BさんとFさんがおっしゃったように、意識の変化ではなく、社会の仕組みを変えれば、エネルギー問題を改善できるというのは確かに私もその通りだと思います。柳下先生の講義でもお話があったように、都市・国家レベルで取り組んでいけば、確かにエネルギー問題は改善されると思います。

木村: なるほど。生活に関する意見として、Eさんから、始まった生活はなかなか後戻りできないのではないかという話が出ていますけれども、そこに関して、Dさんはどうですか？

D: 確かに生活は便利で、多くの人が受け入れていることに関して、それをやめるのは結構難しいものがあると思います。それをより効率化するというか、なくてもいい場所に電気があったりするんで、そういうものは誰かが意識すれば言い出せるわけで。そういう無駄な部分を省くという意味での個人の意識は、変えられるのではないかと思います。

木村: なるほど。今のEさんの意見、Dさんの意見について、他の人はどうですか？

F: 私も変えられると思います。消費税が上がったときも、最初は、「うわ、上がるのは嫌だな」と思っても、結局自民党が当選して、そのまま消費税が上がったら、「ああ、108円だな」ってなっているだけです。割と国民はのんきなもので、2~3年もすれば忘れると思うので。2倍、3倍になったらあれだと思うのですが、ちょっとやそつと変えられたぐらいだったら、気づいたら適応するものだと思うので、変えられると思います。

木村: なるほど。自分から変えるというのではなくて、変わってしまうということですね。

F: はい。後戻りできないというより、勝手に変えられたら納得すると思います。

木村: 他の人はどうですか？ Eさん、反論してもいいですよ。

E：まず、Dさんの無駄を省くという意見は、確かにできるのならしたいと思うのですが、うーん、やはりできていないというか、無駄を省くということが今の日本の社会でできるのだったら、すでに都市・国家レベルで、何かしらの施策ができていないかなと思うのです。フランスとか他の国みたいに、都市ごと変えてしまうとか、そういうことが、誰かが声を上げられる社会ならできると思うのですけど。日本人の国民性として、そういう声をあげることが少ないから、なかなか難しくて。声をあげられるなら確かにできると思うのですけど、そこはもう個人の意識というか、まあ意識なのですけど、なかなか難しいなと思います。

あと、Fさんの言っていた強制されれば、というのは、たぶんここに集まっている人たちは、ちょっと消費税が変化しても「別に」と思えると思うのですけど、日本は全体的には豊かかもしれないけど、やはり生活の苦しい人はいるわけだし、うーん、強制されれば確かに変わらざるを得ないけど、それでいいのかというところは考えていかなければいけないと思います。

木村：今の意見について、皆さんどうですか？

B：先ほど、意識に関わらず社会のシステムが進歩していけば、という話をしたと思うのですけど、無駄を省く努力は、3.11以降、結構してきたと思うのです。例えば、私の学校は、「節電にご協力ください」みたいなポスターが貼ってあるのですが、3.11の前後を比べて、3.11後はそういう意識がすごく強くなったし。例えば私の学校でいえば、お昼休みは1階しかエアコンが点かないとか。そういうことがあったりしたのですね。

もっと全国的に削減できそうな部分としては、例えばトイレに行ったときに自動で乾かす装置があるじゃないですか。ああいう装置って、基本的に電源が点きっぱなしですよ。例えば、あれを使わないようにするとか。それこそ、誰も入っていなくても、トイレの温便座は電源が入っていますよね。そういうふうに、人がいないにも関わらずずっと点いているものは、身近なところでもたくさんあると思うので。

3.11みたいな、意識を変えなきゃいけないって思えるようなものすごく大きな事柄が起こらなきゃいけないのかな、という気はしますけど、そういったことをきっかけに、無駄を省くための意識を皆が持つようになったり、変わるきっかけにはなるのかなと思います。

木村：発言していない方、どうぞ。

C：私は、Fさんとかがおっしゃったことと似ているのですが、便利さや豊かさの価値観は、ちょっとずつ変えられると思っています。具体的に言うと、何かの認証マークとかで、「これは省エネなものです」とか、信頼性のある機関がそういうものを導入していくこと

によって、知らない間に、ああ、そういうマークがあったのかなと思って、星がいっぱいあるからこの車を買おうかなとか、そういうふうになんとなく変わることではできると思うので。「意識」と言うと、道徳的なところをイメージしがちだけど、他にもいろいろ方法はあるのかなと思いました。

あと、生活が苦しい人に関しては、うーん、確かにそういった選択肢はあまり少なくなってくると思うので、また別のところの支援とか、そういうほうの話かなと思いました。

木村：Aさん、どうですか？

A：国民1人1人に省エネしようと呼びかけるのも大事だと思うのですが、働き蜂の原理じゃないですけど、たぶん100%は無理だと思います。政府目線からしたら、電気代や無駄遣いを減らすには根本的な改革が必要で、国民の道徳レベルの話は、お釣りが来たらラッキーレベルの話だと思います。そういう取り組みを先に進めたいのだったら、まあ強制ではないのですが、電気製品をどんどん効率のいいものに変えていったり、企業に何%削減を指示したり。まあ、それもFさんの「産業は大切にしたい」ということで、負担のないレベルで、でも効率的に企業にはたらきかけるとか。そういう施策が必要じゃないかなと聞いていて思いました。

木村：Gさん、どうですか？

G：私も、1人1人が節約したほうがいいみたいな意識で変えていくのは難しいかなとは思いますが、政府とか企業が国民を誘導するというか、こっちのほうが国民にとって利益があるという制度とか、例えば減税とか、そういうふうには操作をすれば、国民も、そちらのほうが利益があるということで動いていけるというか、そういうふうには誘導できるのではないかなと思うので、変えることはできるかなと思います。

木村：なるほど。

ということで、いろいろ意見が出てきましたけど、あっという間に9時になってしまいました。全然合意形成になっていないかもしれないですが、そろそろ終わりにしていかなければなりません。Eさん、今までの意見を聞いて、どうですか？

E：そうですね、私は、個人の考えたことはあまり変えられないと思っていたのですが、人から強制されればそんなに変わるものなのかなと思うと、なんか悲しいですね（笑）。私は、そうは言っても変えられないでしょうって思うのですが、ただ、多くの人が、国から強制されたりすれば、なんか変わるのかなあと。少なくともここにいる人たちは変わるのかなと思って（笑）。不満も持たないのかなって少し思ったのですが、まあ、

それが現実なら、そういうものなのですね。

木村：すごく哲学的なところにコンフリクトがあって、根本的な価値観の議論が展開してきました。変わるのか、変わらないのか、という真実みたいな話になってくると、なかなか結論が出にくいのですが、どうでしょうか、もう時間なので最後にこの問題について考えてほしいのは、自分の意識が変えられる、変えられないは別として、変える方向に動かすべきなのか、それとも、そんな努力はしなくていいのか。自分のアクションとして見たときに、皆さんはどう思うのかということ、最後に一言ずつもらって、終わりにしていきたいと思います。

Eさんは最後にしましうね。じゃあ、Aさんから回します。どうぞ。

A：ええと、自分がアクションすべきか？

木村：そうです。変わるものだ、変わらないものだ、ではなくて、でも理想としては変わっていったほうがいいのか、それとも別にそんなことはないのか。

A：変わっていったほうがいいのかと思います。ええと、この電気の、

木村：そうです、一応テーマとしては「2050年のエネルギーを考えるときに」です。エネルギーを考えるときに、ここに出てきたようなこだわりポイントに向けて変えていくのがいいのかどうか、ということです。

A：効率と自給率の2項対立、まあいわゆる市民レベルの生活なのか、それとも環境レベルなのか、ということ考えたときに、私の中ではまだ結論は出ていないのですよ。どちらに重きを置くか、という話だと思うのですが、ここでは環境を考えるとしたら、変わっていくべきだと思います。コストとかを多少犠牲にしても、環境のことを考えていく世界を作るのだったら、変わらなければいけないと思います。難しいですけど。

木村：はい。じゃあ、Fさん。

F：私は、変えるほうに行くに越したことはないと思っています。

木村：はい。どうぞ。

B：私は、うーん、難しいですね。例えば身近なところで使わない電気を切るとか、そういうことをしたことによって何か変わるのであれば、そういう意識を積極的に持てると思う

のですが。それをしても何も変わらない、となってしまうと、できるかなという疑問はあります。でも、道徳的に考えれば、やはり減らしていったほうがいいのかと思います。

最後に木村先生がおっしゃってくれたことで思い出したので、ひとつ付け加えておきたいのは、エネルギーを節約するという方向と、Aさんが言ってくれた電気代の話、経済的な利益や負担というものが、今は密接に絡み合っていると思います。私の家は、今、蓄電池を入れているのですが、蓄電池を入れると、やはり安くなるし、エネルギー消費量も下がるのです。そういうふうに、自分の行動を目に見えて変えさせるような何かがないと、現実的には難しいのではないかという気はしました。

木村：はい。じゃあDさん。

D：私も、できるなら変えていくべきだと思っています。パリ協定でしたっけ、最近、CO₂削減を世界的にやろうということも合意になってきていて、私的にはそういう意識が世界で共有されつつあるのではないかと思っています。それに乗っかるというか、それに関与できるなら、していくべきだと思っています。

木村：はい。じゃあCさん。

C：私も変える方向がいいかなと。変えないという意見の目指しているところ、だったら最終的にどういった世界にしたいのかなというところがよく分からなかったのです。自分自身も、変えるということが前提で話をしていたので、そこがもうちょっと考えていきたいなと思ったところです。

木村：はい。Gさん。

G：私も、変えていくべきだと思っています。個人の力では限界があるので、人任せじゃないのですけれども、国とか企業とか、もっと大きな力を持っている人が頑張ってもらいたいというか、いろいろ導いてくれたらいいなと思います（笑）。

木村：自分がそういう立場になってもいいですからね。

じゃあ、Eさん。

E：私は、技術とか、今、Gさんも言った国家とかのレベルでは、変えていくべきだとは思いますが。

こだわると、個人のことはいろいろな考えがあつていいと思います。全員が省エネを推奨したり、逆に温暖化にはもう興味ないと言ったり、どちらか一方になってしまう世界は

やはりよくないので。いろいろな考えの人がいて、ただ、実際すでに問題はあると言っている人たちもいるのだから、そういう人たちが国を変えたり、企業を変えたり、という大きなところでは変えていくべきだと思います。

木村：ありがとうございます。

本当はこれから合意に向けての話し合いかなという段階ですけれども、まあ、入り口としてはこんな感じかなと思います。もう時間になってしまったので、これで話し合いの時間は閉じていきたいと思います。